

公益財団法人日本野球連盟
JAPAN AMATEUR BASEBALL ASSOCIATION



公益財団法人日本野球連盟

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サビアタワー内
E-mail baseball@jaba.or.jp
URL <http://www.jaba.or.jp/>

企業スポーツとしての 社会人野球の存在意義とは？



企業スポーツとしての 社会人野球における 3つの存在意義

1. 従業員の士気高揚・一体感の醸成

東京ドームで行われる都市対抗野球大会が社会人野球を象徴しています。各企業のトップにも来ていただき、グループ企業や取引先の社員だけではなく、家族や地域の方々も一つになって応援し、共に応援歌（社歌）を歌う。まさにこの一体感が活力の源になる。新入社員の研修の一環として応援をリードするチームもあります。

2. 社業や地域社会に貢献できる 人材の育成

社会人野球の意義は勝つことだけではありません。野球で培った資質をもって社業や地域社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

3. 野球部は社会に貢献できる存在

企業によるスポーツは、公器としての社会貢献という意義があります。社会人野球チームは地域の財産となることを目指し、地域スポーツの発展に寄与します。多くのチームが地元地域で少年野球教室などを行っています。

Top Message

公益財団法人日本野球連盟(JABA)は、
1949年(昭和24年)に日本社会人野球協会として発足しました。
その後、1985年(昭和60年)2月に名称を日本野球連盟に改め、
2013年(平成25年)3月に公益財団法人の認可を受け現在に至っています。

当連盟は、設立以来、都市対抗野球、社会人野球日本選手権、
全日本クラブ野球選手権等の社会人野球を通じて、国内の多くの企業や地域の
方々からのご賛同をいただき、野球競技の普及、
発展に寄与する団体として活動しております。

また、少年野球や女子野球関係団体も当連盟の構成メンバーであり、
その活動をサポートしているほか、
野球指導者育成事業やティーボール教室の開催などを通じて、
更なる野球競技の普及、発展に取り組んでおります。
今後も野球競技が国民的スポーツとして発展していくことを願っています。

2020年6月

公益財団法人日本野球連盟
会長 清野 智



About JABA

公益財団法人日本野球連盟は、1949年に日本社会人野球協会として設立しました。その後1985年に名称を日本野球連盟に改め、1990年に文部省(現文部科学省)より財団法人として認可を受け、2013年には内閣府より公益財団法人としての認可を受け、新しくスタートしました。

日本野球連盟への名称変更を契機に、引き続き都市対抗野球をはじめとする社会人野球を推進する一方で、少年や女子

野球関係団体を傘下に置き、より広い範囲での野球競技の普及と振興を図る団体として今日に至ります。

日本野球連盟では、定款に掲げる目的や取り巻く環境を踏まえて、野球競技が多くの人々に愛される国民的スポーツとして発展していくことを願い、新しい時代に向け活動を行います。

社会人野球の歌「我街の誇り」

作詞 伊集院 静
作曲 林 哲司

一 陽は昇り、雲は光る。
我街に青空が広がる。
聞こえるよ。白球の音。
働く汗、球を追う汗。
まぶしいのは生きている証し
勇気をくれる野球の神様。
さあ駆けよう。闘いの地へ
誇りと勇気を胸に抱き
我街のすべて、チームのすべて。
青い空の下へ、いざ集おう。

二 海は揺れ、風は鳴るよ。
我街は、皆を抱き寄せる。
聞こえるよ。砂を蹴る音。
働く夢、ひとつのチーム。
かけがえない友情の証し
素晴らしい人 野球の神様。
さあ見上げよう。光る青空。
誇りと勇気を胸に抱き
我街のすべて、チームのすべて。
野球の旗へ いざ集おう。

社会人野球の歌「我街の誇り」は2019年に都市対抗90回開催と連盟創立70周年を記念して制作された。

作詞は、社会人野球を題材にした小説「受け月」で直木賞を受賞し、作詞家として日本レコード大賞にも輝いた伊集院静さん。作曲・編曲は、中森明菜「北ウイング」など約2000曲を作曲し、Jリーグ・清水エ

スパルスの公式応援歌も手掛けた林哲司さんが担当した。

生まれ育った山口県防府市に社会人野球チームがあった伊集院さんは「彼らの姿はまさに街のヒーローであり、街の誇りでした」、林さんは「野球を通じた選手と選手を取り巻く個々のドラマを意識しつつこの曲を書き上げた」とそれぞれメッセージを寄せた。

日本野球連盟基本理念

1. 野球競技の普及振興を図り、人材を育成します
2. 国民の心身の健全な発達に寄与します
3. 国際交流と国際貢献を実践します

目的

野球競技の普及振興を図り、もって児童・青少年の健全な育成
及び国民の心身の健全な発達に寄与し、
または豊かな人間性を涵養することを目的としています。

JABA組織図



ガバナンス(統治)7原則

1. 権限と責任の明確化
2. 倫理的な行動、法令順守
3. 適正なルール改正
4. 透明性と説明責任
5. 戦略的計画・人材育成
6. 多様なステークホルダーの尊重
7. 効果的な財務運営

社会人野球の活動指針

日本野球連盟は、3つの基本理念を実現するため、6つの「社会人野球の活動指針」を制定しました。
社会人野球に関わるすべての団体（本連盟、各地区連盟、各都道府県連盟、全加盟チーム）並びに構成する役職員や競技者等は、次に掲げる諸原則に基づき、法令、規則、規定及びその精神を遵守するとともに社会的な良識を持って行動します。

1 社会に貢献できる人材を育成する

- ・企業人としての自覚を持ち、社業に貢献する
- ・社会人としてのコンプライアンスを遵守する
- ・社会・地域貢献活動に積極的に参加する

2 ファンに愛される魅力ある野球を実践する

- ・フェアプレー精神を推進する
- ・高い技術レベルの野球を追求する
- ・スピードアップ・マナーアップを推進する
- ・審判員並びに対戦相手をリスペクトする

3 競技力向上に努める

- ・全国大会や世界の舞台に通用する人材（指導者、選手、審判員、記録員、技術委員等）を発掘、育成する
- ・日本代表チームの編成、強化に関する事業に対し、一致協力する

4 地域社会の発展に寄与する

- ・社会人野球チームは、地域社会、自治体、企業、そして、そのコミュニティに生きる住民や仲間たちとの架け橋となって、喜びと感動を共有できる存在（地域の財産）となることを目指す

野球教室等の開催
施設の開放
ボランティア活動への参加

5 野球を通じた国際交流と国際貢献を実践する

- ・野球発展途上国の活動を支援する
- ・国際交流を通じた友好関係の構築に努める
- ・全日本野球協会（BFJ）を通じたアジア野球連盟（BFA）並びに国際野球ソフトボール連盟（WBSC）の事業に協力、支援を行う
- ・全日本野球協会（BFJ）を通じたオリンピック競技種目復活活動への協力、支援を行う

6 新たな社会人野球文化を創造する

- ・情報発信力の強化
スポーツを通じたコミュニケーションの力を通じて日本の野球文化を豊かにする
- ・スポンサーとの共同活動の推進
社会人野球に対するスポンサーと協力し、スポーツビジネスとしてのプランを構築し、社会人野球の持つ価値を最大限発揮する
- ・文化の継承
多くの国民に愛される社会人野球となるため一致協力し、永くその文化を継承する
- ・企業スポーツとしての社会人野球の価値向上
企業スポーツとしての社会人野球の存在価値向上を図り、企業チームの新規参入促進の活動に取り組む
- ・クラブチームの振興策の検討
新たな形態のクラブチームを育成し、かつ、自主運営による大会を促進させる





社会人野球日本選手権大会

社会人野球のその年度のチャンピオンを決する大会として位置付けています。都市対抗野球大会をはじめ、その年度中に行われる全国規模の大会で優勝したチーム並びに各地区の最終予選を勝ち抜いたチームが出場して行われます。単独チームとして最も技術レベルの高い大会です。

全日本クラブ野球選手権大会

日本野球連盟に加盟登録するチームのうち、会社登録（会社等の法人が設立する）チーム以外のクラブ登録チームによる全国大会であり、各地区予選を勝ち抜いた代表チームが参加します。優勝チームには社会人野球日本選手権大会の出場権が与えられます。



1 社会人野球大会

都市対抗野球大会
社会人野球日本選手権大会
全日本クラブ野球選手権大会

広範な国民が参加できる野球大会を主催するなど、最も国民に広く親しまれているスポーツである野球競技を通して、心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養を図ることを目的とした活動を実施します。

都市対抗野球大会

社会人野球を象徴する大会であり、加盟する全てのチームが予選に参加することができます。各チームとも所在地をおく都市名で大会に参加することから、地域や母体となる企業との協力体制による応援組織が結成され、スタンドには多くの観客が詰めかけ、地域色豊かな応援が繰り広げられます。



日本選手権対象 JABA大会（11大会）

日本野球連盟の各地区連盟が主催する大会であり、優勝チームには社会人野球日本選手権大会の出場権が与えられるため「社会人野球のトップレベルのチームが参加する大会」と定義づけられています。



全国大会予選及びその他の大会

各地域では、前記全国大会の予選をはじめ、当該地域のチームによる大会も行われます。また、各地区連盟や各都道府県連盟の推薦を受けたチームが出場する地区連盟主催の公認大会もあります。

各地区クラブ大会

従来のクラブカップ大会を発展的に解消、クラブチームの新たな目標となる位置付けの大会として2015年度に制定。JABAと各地区連盟との共催による各地区クラブ大会（中国と四国は合同開催）として行われます。

2

研修事業

野球競技の普及と振興を図るため、各種研修事業を実施しています。日本を代表するトップレベルの選手の発掘、育成をはじめ、直接選手の指導にあたる指導者や大会運営に従事する審判員、公式記録員、さらには、場内アナウンスなど特殊技術を求められる様々なスタッフの育成に努めています。

競技力向上事業

全日本ジュニア強化合宿

将来有望な若手選手を招集し、技術やコンディショニングに関する先端情報を提供し、連盟が指名する指導者による実践練習等を行っています。

各地区技術研修会

日本を代表するレベルや将来有望な若手選手を招集し技術やコンディショニングに関する先端情報を提供し、連盟が指名する指導者による実践練習を行います。

交流大会、親善試合の開催

指導者や選手等のレベル向上を目的とし交流大会や親善試合を実施します。又は、交流大会や親善試合に派遣しています。

海外研修及び派遣事業

優秀選手及びチーム、又は選抜選手によるチームの海外研修派遣を実施。指導者、審判員、記録員等の海外派遣を実施します。



審判員育成事業／公式記録員育成事業／場内アナウンス研修事業

技術レベルの高い試合を担当できる審判員や公式記録員、又は場内アナウンサーの育成並びに優秀な審判員を育成するための指導者を育成することを目的としています。理論や技術講座並びに数多くの経験に基づく講話等のカリキュラムで構成する講習会の実施や各地域で開催する講習会に対しても一定の規則に則り、講師の派遣や経費支援等も行っています。



指導者育成事業

JABA主催大会において、より高いレベルのチームを作り、トップレベルの選手を育成していくため、現場の指導に携わる指導者・選手の資質向上を図ることを目的としています。高い技術と経験と知識に裏付けされた理論を学び、討論や実習、講演などでカリキュラムを構成。参加対象は原則として加盟チームの指導者ですが、一般の指導者からの参加要望があれば受け付けています。また、各地域で開催する指導者講習会に対しても一定の規則に則り、講師の派遣や経費支援等も行っています。



3

野球競技の普及に関する事業

子どもから大人まで幅広い年齢層を対象に、野球競技の普及振興及び野球選手、指導者、審判員、記録員の育成を目的とした事業を実施し、活力あるスポーツ社会の実現に向け貢献したいと考えます。

野球教室／ティール教室

野球競技に関係する団体やチームに参加している子どもたちだけに限らず、広く多くの子どもたちに野球競技に親しむことができる機会を提供することを目的とし、基本となる技術やルール、楽しみ方などを伝えています。



野球情報提供事業

野球という国民的スポーツを更に多くの人に知っていただき、競技に参加できる機会を増やすと同時にスポーツへの参加意識を高めることを目的としています。

野球大会のグッズ及び野球に関する書籍等の販売

公益事業で掲げた野球大会のグッズ、野球に関する書籍等の販売を行っています。



4

加盟団体の振興

野球競技（硬式野球）に関係する団体が加盟しています。各加盟団体における普及振興事業の拡充を図るため指導員の派遣や一部経費の支援等を行っています。

日本中学硬式野球協議会

ボーイズリーグ、リトルシニア、ヤングリーグ、ポニーリーグ、フレッシュリーグの5団体が参加しています。5団体が共同で取り組む以下の事業について運営をサポートしています。

- ・全日本中学野球選手権大会の運営
- ・指導者育成事業
- ・普及振興事業

小学生硬式野球

リトルリーグ、ボーイズリーグ、ヤングリーグ、ポニーリーグ、フレッシュリーグの5団体が参加しています。5団体が共同で取り組む以下の事業について運営をサポートしています。

- ・全国小学野球大会のサポート
- ・指導者育成事業
- ・普及振興事業



日本代表チームの編成・強化のサポート

全日本野球協会（BFJ）選手強化委員会が行う日本代表編成事業のうち、以下の4つのカテゴリーの代表チームについて事業運営をサポートしています。

- ・15歳以下（硬式）
- ・15歳以下（JJBF）
- ・12歳以下（硬式）
- ・女子

女子野球の振興

全日本女子野球連盟が行う普及振興活動を側面からサポートしています。

The Future Design of JABA

社会人野球将来構想

2019年度に都市対抗野球大会は90回、日本野球連盟（JABA）は、創立70周年を迎えた。将来へ向けたあるべき姿を検討するため、2017年2月、JABA将来構想プロジェクト委員会を設置した。社会人野球が10年後、20年後も日本のひとつの財産として、存在価値を認められ続けられるための構想を検討することを目的に掲げ、2018年12月JABA理事会に答申を提出した。JABAでは、この答申を受けて、その具体的な提言（答申事項）を施策として実施していくことを目指し、特別委員会を設置し協議している。具体的な提言（一部抜粋）について、以下ご参照ください。

JABA将来構想プロジェクト委員会委員

委員長	筒井崇護（常務理事）
副委員長	前田正治（理事）
委員	高見泰範（理事）、廣瀬寛（監事） 小山克仁、戸塚俊美（規則・審判委員会委員） 堀井哲也（JABA日本野球部監督） 阿久根謙司（有識者）
事務局	佐藤栄一

※ ()内は、「社会人野球将来構想答申」提出時（2018年12月）の役職。



1 基本的な考え方について — 企業人としての誇り —

「社会人野球選手は野球選手である前に一社員であり、一般社員となら変わることなく企業の業績に貢献する。野球部在籍中は野球活動と業務のバランスを考慮し、トータルとして企業への貢献を模索する。職種により、野球と業務の時間配分はさまざまであるが、企業人としての最終目標は同じであり、いかにして企業に貢献し、企業活動を通じて世の中の役に立つかである。」

社会人野球がこれからも生き残るためには、社会人野球の特殊性を高めることである。世界のどこにも存在しない日本独自の野球カテゴリーであり、言い換えれば「ガラパゴス野球」である。世界に類似するものがないことが、逆に生き延びるチャンスを最大化することもある。つまりガラパゴス化とは「文化」になるチャンスがあることを意味する。

プロ野球の対極にあって、社会人野球にしかない特殊性の一つが高校野球にも負けない「真剣さ」や「ひたむきさ」であり、「高度な技術レベル」をあわせもっていることである。しかもプレーしている

選手たちが企業人であるということである。

そして、学生野球の受け皿となり、多くのプロ野球選手を輩出し、アマチュア野球界にも優秀な指導者を数多く輩出してきた実績もある。まさに、日本球界にとって必要不可欠な存在である事実を再認識する必要がある。

これまで以上に社会人野球側からさまざまな分野にアクティブに働きかけ、日本全国にある社会人野球チームが地域の教育行政等にも寄与し、企業人であり野球人である選手たち、またそのOBたちが野球以外の広範な分野で、その地域の人たちに影響力を行使できる働きかけを具体化すべきである。

そして、その地域になくしてはならない付加価値を高めた存在として、企業のCSRといった枠組みを超えた媒体となって、社会に貢献する新たな仕組みを構築することが「文化」としての「社会人野球」に求められる姿勢である。

具体的な提言（答申事項）について

1 野球部の在り方を再確認する「PDCA」の運用

・能動的変革

連盟主導ではなく各企業が自チームの特性を最大限活かし、自ら変革を実行していくもの。

・進め方

各企業の経営側と野球部関係者側は、PDCAについて協議し、社内に積極的に発信する。危機感をもってPDCAを遂行する。

・PDCAを運用する項目

1. 社会人野球選手（企業人であり野球選手）としての働き方

野球部のOBを含めた選手たちが、一般社員以上にその企業の戦力として機能することが重要である。強い野球部であることだけでは、社員の共感や理解は得られにくい。「福利厚生」や「企業PR」はもちろ

んのこと、より質が高められた「企業の象徴」として企業内認知が進まなければならない。選手たちの「矜持」が、野球での貢献はもちろんのこと、業務においても「総合力」で企業に貢献できることを目指す。

POINT	・存在意義の職制を通じた発信	・業務に関わる「量」と「質」の向上	・勤務姿勢の確認	・評価方法
	・企業内周知の徹底	・貢献度のアップ	・重要なOBの役割	

2. 地域貢献について

POINT	・担い手としてのOBの活用	・地域貢献の広域化
	・指導の適正化	
	・「コーチング」による指導者への指導	

3. 社会人野球のPR・広報について

POINT	・社会人野球のファンづくり	・具体的PR内容
	・ミスター社会人の活用	・OBによる講演会
	・後援会の発足	

2 広報活動の強化

POINT

・JABAの広報力強化

JABA内に広報部を立ち上げるかアウトソーシングによって、広報活動に専門性をもつ会社と情報のやり取りを随時行い、タイムリーな広報活動を展開する。

・デジタル化への対応

JABAが今までデジタルツールの活用を行ってきたが、実況中継や解説者を含めたコンテンツの一層の充実が求められる。

3 地区連盟の強化

JABAを組織体として強靱化するためには地区連盟の強化が避けられない。世代の若返りを積極的にを行い、企業からの出向者やクラブチーム関係者も一体となって、地元の企業まわりやスポンサーさがし、地元マスメディアへの対応等、自主独立の気概をもって企画、実行を繰り返すべきである。各加盟企業からの応援という形は不変ながら、若手OBを大いに活用できる体制を整えることが急務である。JABA本部と各地区連盟がこれまで以上に緊密な関係をもち、連盟の運営をサポートをしていくさらなる協調体制が必要である。

4 各種大会の見直しと参加チームの負担軽減

二大会運用の改善

POINT

・都市対抗野球大会のステータスアップ

→都市代表、地域代表を前面に押し出す演出
→夏休み期間中での開催

・日本選手権大会の地方開催案

→地区連盟もち回りの開催
→「ランキング化」での上位チームによる開催
→「真の実力日本一」の大会運営

JABA地方大会の充実

POINT

- ・地方大会でのティーボール教室の展開
- ・地方大会のステータスアップ
- ・スポンサー名冠大会での開催

5 クラブチームの育成・充実

・競技人口を支えるクラブチーム

クラブチームの登録数(255)は企業チーム(97:専門学校含む)を大きく上回り、野球競技の普及振興、野球競技者の底辺拡大に大きく貢献している。クラブチームを育成・充実していくために、地区連盟や加盟地方団体は更なる取り組みを行い、課題を共有するなどして企業チームと一体となって改革を進める必要がある。

・自助努力と支援

クラブチームも、その地域の発展や野球競技の普及振興の役割を担う。企業チームは、地域のクラブチームを支えることが社会人野球の底辺拡大に貢献できることを意識しなければならない。近隣に所在地を置くクラブチームに対し、グラウンドの開放や研修会

・クラブチームの強化

野球を楽しむことが目的のチームもあれば、都市対抗野球大会を狙うチームもあり、各個で目標が幅広いのもクラブチームの特色である。組織力や技術レベル差も大きいことから将来的にクラブチームの二部制を制度化、戦力均衡化を図った地方大会への移行も考えられる。また、野球競技の底辺拡大や普及振興にも貢献できるチーム形態であることが望まれる。

などの実施により、各地区連盟、各加盟地方団体とともにその活動をサポートする。また、クラブチームの活動環境に支障が出ないようにサポートすることがJABAの使命である。

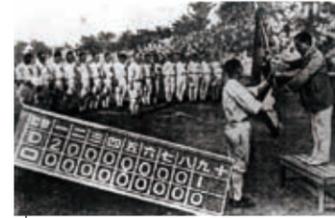
6 結び—文化として語られる野球界を目指して

2018年に開かれた都市対抗野球大会開会式で選手宣誓された「野球を通じて人と人、人と社会、地域と企業をつなぐ。私たちが懸け橋となって未来の社会人野球の発展につなげていきます。」という言葉のように、日本独自の野球文化を発展させるためにも、さらなる「文化」としての高みを目指し、地域の人々に「語られる野球」を次世代に継承していくことが必要である。

History of JABA

公益財団法人
日本野球連盟沿革(抜粋)

野球競技の普及振興と、新たな人材育成を目指し続けて、JABAは永い歴史を刻んできました。



第1回都市対抗野球大会。大連市・満洲倶楽部が優勝。大優勝旗を受ける竹中主将(下は当日のスコア)

1927 (昭和2)年8月3日
第1回都市対抗野球大会を神宮球場で開催。

1949 (昭和24)年2月16日
「日本社会人野球協会」として発足。初代会長に宮原清氏が就任。

1951 (昭和26)年10月21日
日本産業対抗野球大会がスタート。

1954 (昭和29)年9月23日
第1回世界野球大会がミルウォーキーで開催。



第22回都市対抗野球大会【新潟市・新潟クラブ・高砂町・鐘淵化学】

1964 (昭和39)年10月11日
東京五輪で野球が公開競技で行われ、都市対抗に優勝した日本通運を主体としたチームがアメリカ代表チームと対戦。

1974 (昭和49)年10月28日
日本産業対抗野球大会を発展的に解消、単独チーム日本一を競う大会として「社会人野球日本選手権大会」が甲子園球場でスタート。

1976 (昭和51)年8月23日
全日本クラブ対抗野球大会がスタート、第1回大会は神宮球場で開催。

9月
国際野球連盟(IBAF)に加盟

1979 (昭和54)年7月28日
第50回都市対抗野球大会から金属製バットの使用を解禁。

1980



バルセロナ五輪で銅メダルを獲得した日本代表チーム。

1980 (昭和55)年8月22日
世界アマチュア野球選手権大会を初めて日本で開催。14日間で25万人の動員。

1984 (昭和59)年8月
ロサンゼルス五輪で公開競技として行われた野球競技で日本は金メダルを獲得。

1985 (昭和60)年2月21日
「日本野球連盟」に改称。

1987 (昭和62)年6月10日
日本体育協会に加盟。

1988 (昭和63)年7月28日
都市対抗野球大会はこの年完成した東京ドーム開催。

9月19日
ソウル五輪で公開競技として行われた野球競技において日本は銀メダルを獲得。

1990 (平成2)年6月20日
全日本アマチュア野球連盟(BFJ)を設立。JOCへ加盟。

1992 (平成4)年8月
バルセロナ五輪の野球競技において日本は銅メダルを獲得。

1996 (平成8)年8月
アトランタ五輪の野球競技において日本は銀メダルを獲得。

1997 (平成9)年12月
1961年以降、禁止してきたプロ野球退団者の選手登録を条件付きで認める。



プロ野球退団者の選手登録再開の決議後記者発表を行う山本英一部会長(当時)

2005



第82回都市対抗野球大会は京セラドーム大阪で開催。

2000 (平成12)年8月
役員の70歳定年制を制定。

2001 (平成13)年8月
都市対抗野球大会に「黒獅子エンブレム」を制定。

2002 (平成14)年2月
プロ野球に関わる制限事項を撤廃。社会人野球公式大会の名称に「JABA」を盛り込む。社会人野球は金属製バットの使用を原則止め、木製バットとなった。

2003 (平成15)年4月
社会人野球では、延長回に関わる特別規則(タイブレーク)を内規に盛り込んだ。

2006 (平成18)年2月
東・中・西日本各ブロック大会を創設。

2007 (平成19)年2月
評議員並びに各委員会委員にも70歳定年制を制定。

2009 (平成21)年8月
第80回都市対抗野球を皇太子殿下でご観戦。

11月
社会人野球制度改革の概要を発表。2010年度より施行。

2010 (平成22)年2月
日本選手権対象JABA大会を11とし、全大会をリーグ戦・トーナメント方式に統一。年間成績による個人表彰を制定。

2011 (平成18)年2月
3月11日の東日本大震災の影響を受け、日本選手権、日本選手権対象JABA大会を中止。

10月22日
日本野球連盟の基本理念と社会人野球の活動指針を制定した。

10月
都市対抗野球大会は電力事情を鑑み、開催時期を8月から20月に変更し、会場を初めて東京から移して大阪(京セラドーム大阪)で開催。

2013 (平成25)年3月1日
内閣府より公益財団法人への移行が認可され、公益財団法人日本野球連盟となる。

2014 (平成26)年7月29日
第85回都市対抗野球大会決勝戦を天皇皇后両陛下でご観戦。

2015 (平成27)年2月
地区ブロック大会を発展的解消し、各地区クラブ選手権(中、四国は合同)8大会とした。

2019 (令和元)年7月
設立70周年、都市対抗90回を記念して、社会人野球の歌「我街の誇り」を制作、発表した。

国内事業と各種大会

国内事業の中心は都市対抗野球大会である。前身の「日本社会人野球協会」は発足後、社会人野球の統一組織として大会運営に携わった。また、戦後の経済発展と並行して戦前から行われていた鉄道野球大会に加え、炭鉱野球、日本鉄鋼連盟や電機、自動車業界もそれぞれ野球大会開催の機運が高まり、日本の産業の発展と業界の親睦、融和を図るため、全産業を網羅した大会がスタートした。夏は都市対抗、春はサン大会(現在の東京スポニチ大会)、そして、秋に「産業対抗」が定着した。その後、1974年、産業対抗は発展的に解消され、現行の単独チーム日本一を競う大会としての「社会人野球日本選手権大会」が甲子園球場でスタートした。さらに、クラブチームの強い要望と全国への振興を目的として、1976年に全日本クラブ対抗野球大会(現在の全日本クラブ野球選手権大会)が始まった。以後、社会人野球は、都市対抗、日本選手権、クラブ選手権の三大大会を中心に各地で行われる全国大会とともに発展を続ける。

日本野球連盟への名称変更

昭和50年代に入り、国際交流が一段と高まり、社会人野球の名称では国際的に通用しないこと。1984年(昭和59年)のロサンゼルス・オリンピックで野球が公開競技となり、1986年ローザンヌ(スイス)で行われたIOC総会において、1992年バルセロナ・オリンピックより正式種目とされることが決議されたこともあって、日本体育協会への加盟の必要性が生じ、その加盟承認に当たって、社会人野球の名称では支障があったこと。加えて、国内事業においても、より広い範囲で野球の普及振興を図るため、会員の資格要件を社会人のみに限定せず、日本学生野球協会加盟団体所属の者を除く大学及び定時制高等学校(18歳以上)に在籍者も対象としたこと。以上の理由により、1985年2月21日に名称を日本野球連盟に改め、1990年に文部省(現文部科学省)より財団法人としての認可を受けた。現在の加盟団体は小学生や中学生、女子による硬式野球団体など7団体。

全日本アマチュア野球連盟(BFJ:現全日本野球協会)の発足

バルセロナ・オリンピックから野球が正式種目となったことを受けて、日本代表を国際大会に派遣する際の窓口となる統一機関として、日本学生野球協会とともに「全日本アマチュア野球連盟(BFJ)」を設立し、国際野球連盟(IBAF)をはじめとする国際野球組織やJOCに加盟したことから、この年以降における日本代表チームの派遣や強化、育成をはじめとする国際関係事業はBFJに引き継がれ、現在に至る。なお、2013年BFJは「一般財団法人全日本野球協会」に移行し、全日本軟式野球連盟も加盟した。

プロ野球との関係

連盟は発足と同時にNBC(米国野球協会)に加盟した。NBCは「プロとノンプロ」を明確にする必要があるとの意向を示し、これを受ける形で資格規程が制定され、後の運営にも反映された。その後、日本野球機構(プロ野球)との断絶の時代もあったが、1994年に野球に携わるすべての団体が大同団結して行われた「全日本野球会議」を契機に共同の事業が盛んに行われるようになったことから、プロ野球に関する規制事項は、特例ながら徐々に緩和されていった。また、川島廣守プロ野球コミッショナー(当時)名で発信された要望書を受けて、1999年からプロ野球退団者の選手登録が再開された。また、2002年には、特例事項も含めて抜本から見直され、NBCの意向を受けて発足から盛り込まれていたプロ野球に関わる制限事項は全て撤廃された。

改革の時代

バブル経済の崩壊後、1990年代を境に社会人野球には大きな転機が訪れる。初の試みとして加盟企業やクラブチーム代表者、識者からなる分科会「21世紀の社会人野球の在り方を考える会」(小野秀夫座長)を設置、後の改革の基礎となる答申が提出された。この答申を受けて、アマチュア野球トップレベルの選手たちが野球に打ち込める環境づくりや企業スポーツとしての社会人野球の在り方、そして、クラブ野球の普及と組織としてのチーム強化を目的に規制緩和や各種振興策を次々に打ち出した。2008年には、急増するクラブチームの振興策として「クラブリーグ構築5か年計画」、さらには、社会人野球シーズン全体の改編策として「社会人野球制度改革の概要」を2009年度にそれぞれ策定、中長期的な施策は現在も取り組んでいる。

歴代会長氏名と在任期間

	氏名	就任(在任期間)
初代	宮原 清	1949年2月16日(13年5カ月)
2代	青木 均一	1963年1月24日(4年)
3代	上田 常隆	1967年1月23日(1年)
4代	本田 弘敏	1968年1月25日(13年9カ月)
5代	武田 豊	1982年1月22日(9年)
6代	飯田 庸太郎	1992年2月18日(5年)
7代	山本 英一郎	1997年2月19日(8年)
8代	松田 昌士	2005年2月22日(5年)
9代	市野 紀生	2010年2月24日(8年)
10代	清野 智	2018年5月11日～現在



- Message -

参加企業からのメッセージ

社会人野球に参加する企業の皆様に
企業スポーツとしての社会人野球の存在意義についてお聞きしました。



JXTGエネルギー株式会社
代表取締役社長

大田 勝幸 様

野球部は「JXTGグループ」の象徴です。

JX-ENEOS野球部は、1950年の創部以来、社員とその家族のみならず、お取引先や関係先など多くの皆様に支えられて今日に至っております。野球応援を通じて、それらの皆様とJXTGグループの関係をより強固なものにするとともに、グループ全体の「誇り」、「一体感」を醸成する大きな役割を担っています。

また、グループ行動基準の一つである「市民社会の発展への貢献」を実現するべく、少年野球教室をはじめとする次世代育成活動や、練習グラウンド周辺地域の清掃活動など社会貢献活動にも積極的に取り組んでおります。

JX-ENEOS野球部は、今後もJXTGグループの象徴として、多くの皆様と共に歩んでまいります。



株式会社東芝
代表執行役社長 CEO

車谷 暢昭 様

挑戦する選手たちの姿に感動。 活力ある会社風土が育まれます。

当社野球部は1958年の創部以来、従業員やその家族、取引先、関係先など、多くの皆様に支えられて活動してまいりました。また昨今、川崎市のスポーツパートナーに任命されたほか、野球教室などの開催やボランティア活動を通じて、野球を通して地域の皆様に愛される存在へと変化を続けております。

さて当社は存在意義として掲げる「新しい未来を始動させる」ために、従業員一丸となってイノベーションを起こし新しい社会を創り上げてゆくことを目指しています。毎年行われる都市対抗への出場も厳しい道のりですが、これからも常に挑戦者として黒獅子旗獲得を目指し戦います。従業員は挑戦する選手たちの姿に感動し声援を送り、そこに企業スポーツの本来の目的である「一体感の醸成」「士気高揚」といった目的が達成され、結果として活力ある会社風土が育まれます。

今後も社会人野球の発展を通じ、たくさんの魅力的な企業が生まれることを期待しています。



日本生命保険相互会社
代表取締役社長

清水 博 様

社会人野球の活性化を通じて、 「アマチュアスポーツ界の発展へ寄与」することです。

当社野球部は1929年の創部以来、当社及びグループ会社の皆様とその家族、そして多くのお客様からご支援、ご声援をいただいております。私は当社野球部の存在意義は、大きく3点あると考えております。

1点目は、「応援・観戦を通じて、ニッセイグループ役員とお客様の一体感の醸成」につながる。2点目は、全国各地での野球教室等のCSR活動により、「地域社会への貢献」を実現すること。3点目は、社会人野球の活性化を通じて、「アマチュアスポーツ界の発展へ寄与」することです。

新型コロナウイルスの影響によりオリンピック延期や日本選手権中止など、スポーツ界にとって厳しい状況が続いていますが、野球部の活躍が一人でも多くの方へ勇気と感動を与えられることを期待しています。



東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長

深澤 祐二 様

地域社会に貢献することで すべての人の心豊かな生活の実現を目指しています。

JR東日本グループは経営ビジョン「変革2027」において、地域社会に貢献することですべての人の心豊かな生活の実現を目指しています。その中で野球部は、都市対抗野球への出場や少年野球教室の開催などを通して、地域の皆さまとの交流や、スポーツによる豊かな社会の実現を目指し活動を行っています。2019年度の都市対抗野球では当社から2チームが出場し、多くのグループの社員、家族、関係の皆さまが心をひとつにして応援し、毎試合、熱い感動を覚えるとともに、自然とグループの一体感が醸成される、企業スポーツとしての野球の魅力を再認識しました。

これからも、地域の皆様に愛され、地域に貢献できるチームづくりに取り組んでまいります。

— 私たちは、社会人野球の発展をサポートします。 —

野球は素晴らしいスポーツです。

中でも、企業人として、またスポーツマンとして努力を続ける選手たちがプレーする社会人野球には大きな魅力があります。

私たちは社会人野球の発展をサポートします。

日本野球振興世話人会

※50音順

NTT西日本 / NTT東日本 / 王子ホールディングス / 大阪ガス / 沖縄電力 / きらやか銀行 / JR九州 / 西部ガス / 鷺宮製作所 / JFEスチール / JR四国 / 七十七銀行 / JXTGエネルギー / SUBARU / 西濃運輸 / セガサミーホールディングス / TDK / 東海理化 / JR東海 / 東京ガス / 東芝 / 東邦ガス / トヨタ自動車 / JR西日本 / 日本新薬 / 日本製紙 / 日本製鉄 / 日本通運 / 日本生命 / バイタルネット / パナソニック / JR東日本 / 日立製作所 / 本田技研工業 / 三菱自動車工業 / 三菱重工業 / 明治安田生命 / ヤマハ

社会人野球チーム運営モデルケースのご紹介

次世代の社会人野球文化の開花に向けて、チームの運営形態も進化し続けています。

企業スポーツ型や複合企業型をはじめ、個人運営の同好会型などその形態は様々です。

新しい日本の野球文化を創造していくために、一つでも多いチームのご参加を願っています。

社会人野球チームの主な運営形態

項目	企業スポーツ型	複合企業型	独立法人型	同好会型
主体	単独企業及びそのグループ企業	企業／自治体・公共団体／府県野球連盟	企業／自治体・公共団体／府県野球連盟	チーム活動に参加する個人(チームスタッフ及び選手)
チーム組織	単独企業及びそのグループ企業でチームを設立・運営する(社員等による後援会組織で運営をサポートする)	複数の企業又は団体でチームを組織する	複数の企業又は団体で独立法人を設立する(株式会社、NPO法人等)	1.地域クラブ 2.同好会
スタッフ及び選手構成	1.主体企業及びグループ企業の社員が中心 2.契約・嘱託社員 3.資本関係の無いチーム後援会法人会員企業等の社員も可	1.地域(又は府県)内の有力企業を中心に一社1～3名程度を雇用し、チーム活動へ参加させる 2.選手が現役を退いた場合、その人数分補充していく	1.地域(又は府県)内の有力企業を中心に一社1～3名程度を雇用し、チームを運営する法人への派遣する 2.選手が現役を退いた場合、その都度人数分補充していく	個人の意思で参加する
運営費	1.チームスタッフ及び選手の労務費は雇用元の各企業負担 2.遠征費、大会参加費、用具代等の活動経費は、主体となる企業負担及び後援会費からの支援	1.チームスタッフ及び選手労務費は雇用元の各企業負担 2.遠征費、大会参加費、用具代等の活動経費は、後援会費(法人及び個人会員)や協賛金(ユニフォーム、広告等)により賄う	1.選手労務費は雇用元とチームの運営法人との協定に基づく 2.遠征費、大会参加費、用具代等の活動経費は、チームの運営法人が負担する 3.寄付や協賛金等による	1.個人会費 2.協賛企業からの支援 3.後援会からの支援 4.地元自治体等からの支援

JABAクラブ会員募集中です！

日本野球連盟では、社会人野球ファンの皆様との新しいネットワークを確立するため、JABAクラブを運営しています。会員の方には、月1回の会報誌「JABAニュース」の送付や社会人野球大会入場割引等の特典を設けております。

年会費 **2,000円** ※2013年より改正

下記お問い合わせ先よりお気軽にお申込みください。

お問い合わせ

公益財団法人日本野球連盟

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー内
E-mail:baseball@jaba.or.jp

JABAクラブ会員になると…

- 特典1** 会報誌「JABAニュース」の購読
月1回発行する会報誌「JABAニュース」で、社会人野球に関する様々な情報を入手できます。
- 特典2** 入場料がお得に！
会員証の提示により、日本野球連盟又は各地区連盟、都道府県野球連盟が主催・協賛する各社会人野球大会が、会員(割引)料金で入場できます。
- 特典3** その他にもいろいろ特典！
その他、日本野球連盟が定める特典を受けることができます。

JABA公認ボール店会

(株)イソノ運動具店/ミズノ(株)／(株)久保田運動具店/松勘工業(株)／(株)サンアップ/ (株)大阪ホーム/ゼット(株)／(株)エスエスケイ/アシックスジャパン(株)／(株)一光スポーツ/ (株)ハイゴールド

JABA加盟チーム一覧

地区	種別:チーム数	チーム一覧
北海道(17)	会社:3	航空自衛隊千歳/日本製鉄室蘭シャークス/北海道ガス
	クラブ:14	帯広倶楽部/プレーブくしろ/小樽野球協会/JR北海道硬式野球クラブ/札幌倶楽部/ウイン北広島 /WEEDしらおい/札幌ブルーインズ/オール苫小牧/旭川グレート・ベアーズ/函館大洋倶楽部/札幌ホーネッツ/TRANSYS/伊達聖ヶ丘病院
東北(70)	会社:9	【青森1】自衛隊青森 【岩手2】JR盛岡/トヨタ自動車東日本 【宮城3】JR東日本東北/日本製紙石巻/七十七銀行 【秋田2】JR秋田/TDK 【山形1】きらやか銀行
	クラブ:61	【青森4】三菱製紙八戸クラブ/全弘前倶楽部/キングブリザード/弘前アレッズ 【岩手23】一戸桜陵クラブ/一関ベースボールクラブ/オール江刺/オール不来方/北上REDS/栗石クラブ/住田硬式野球クラブ/遠野クラブ/福高クラブ/水沢駒形野球倶楽部/盛岡倶楽部/盛友クラブ/前沢野球倶楽部/花巻硬友倶楽部/黒陵クラブ/矢巾硬式クラブ/盛岡球友倶楽部/赤崎野球クラブ/釜石野球団/久慈クラブ/高田クラブ/宮古倶楽部/Baseball Club MKSI 【宮城7】青葉クラブ/TFUクラブ/白山クラブ/東北マークス/HOKUTO Baseball Club/大崎トリプルクラウン/石巻日和クラブ 【秋田8】秋田王冠クラブ/秋田GLANZ/秋田ベースボールクラブ/大曲ベースボールクラブ/能代松陵クラブ/巨大設備ダイヤモンドクラブ/由利本荘ベースボールクラブ/ゴールデンリバー 【山形3】新庄球友クラブ/鶴岡野球クラブ/天童エンジェルス 【福島16】自衛隊福島/会津ベースボールクラブ/オールいわきクラブ/郡山ベースボールクラブ/小峰クラブ/須賀川クラブ/全白河野球クラブ/福島硬友クラブ/北斗野球クラブ/ALL北嶺/いわき菊田クラブ/保原クラブ/二本松クラブ/郡山イーストジャパンクラブ/富士通アインテックベースボールクラブ/川俣クラブ
北信越(22)	活動休止:8	【クラブ8】サニークラブ(宮城)、一迫ベースボールクラブ(宮城)、東京法律専門学校仙台校(宮城)、岩瀬書店クラブ(福島)、オール喜多方クラブ(福島)、福島クラブ(福島)、双葉相馬オーシャンズクラブ(福島)、郡山アスレックスBC(福島)
	会社:4	【長野1】フェデックス 【新潟2】バイタルネット/JR新潟 【富山1】伏木海陸運送
関東(100)	クラブ:18	【長野5】信越硬式野球クラブ/長野好球倶楽部/佐久コスモスターズ硬式野球クラブ/千曲川硬式野球クラブ/上田硬式野球倶楽部 【新潟8】五泉クラブ/佐渡軍団/オール飯豊/新潟クラブ野球団/新潟コンマーション倶楽部/野田サンダース/越前ファイティング/全新潟ブラックス 【富山3】富山ベースボールクラブ/ロキテク/富山/BANDITS BASEBALL CLUB 【石川1】Hard Ball Club 金沢 【福井1】福井マリオンドリームズ
	会社:26	【茨城5】日本製鉄鹿島/日立製作所/JR水戸/日本ウェルネススポーツ大学/茨城トヨペット 【栃木1】エイジエック 【群馬1】SUBARU 【埼玉5】日本通運/Honda/深谷組/オールフロンティア/SUNホールディングス 【千葉3】JFE東日本/日本製鉄かずさマジック/JR千葉 【東京8】篇宮製作所/JR東日本/東京ガス/明治安田生命/NTT東日本/日本ウェルネススポーツ大学東京/セガサミー/JPAセット証券 【神奈川3】JX-ENEOS/東芝/三菱日立パワーシステムズ
東海(31)	クラブ:74	【茨城8】大宮クラブ/全鹿嶋野球倶楽部/全神栖硬式野球部クラブ/全水戸野球クラブ/オール日立ドリームズ/鹿島レインボーズ/茨城ゴールデンゴールズ/Tsukuba Club 【栃木8】宇都宮大学OB野球クラブ/全足利クラブ/全栃木野球クラブ/宇工OBクラブ/TSK宇都宮/鹿沼39/コットンウェイ硬式野球倶楽部/全那北硬式野球クラブ 【群馬4】伊勢崎硬建クラブ/太田球友硬式野球倶楽部/オール高崎野球倶楽部/太田職工業硬式野球クラブ 【埼玉12】全浦和野球団/全大宮野球団/都幾川倶楽部野球団/全熊谷硬式野球クラブ/全三郷硬式野球部/レジェンズ/所沢グリーンベースボールクラブ/WARRIORS41/一球幸福倶楽部/新座ダイヤモンドドッグス/川口ゴールデンドリームズ/新波 【千葉8】BIG WINGS印西/ヌーベルベースボールクラブ/サウザンリフ市原/YBC柏/千葉熱血MAKING/Oceans/ハナマウイ/ジェイエフエフシステムズ千葉 【東京14】西多摩倶楽部/全調布硬式野球倶楽部/東京LBC/WIEN'Z/エスプライド/REVENGE99/全府中野球倶楽部/武蔵野クラブ/東京好球倶楽部/東京弥生クラブ/THINKフィットネス・GOLD'S GYMベースボールクラブ/警視庁野球部/TOKYO METS/ホグレル 【神奈川12】WIEN BASEBALL CLUB/全川崎クラブ/横浜球友クラブ/横浜金港クラブ/相模原クラブ/京浜野球倶楽部/JFAM EMANON/湘南ひらつかマルユウベースボールクラブ/横浜ベイブルース/国際総合伊勢原クラブ/横浜中央クラブ/茅ヶ崎ザンカイツ 【山梨8】甲斐府中クラブ/南アルプス硬式野球倶楽部/桂倶楽部/山梨球友クラブ/北社クラブ/TSUKUMO BASEBALL CLUB/GOOD・JOB硬式野球部/Arts International Club
	活動休止:5	【会社2】いすゞ自動車(神奈川)、日産自動車(神奈川) 【クラブ3】松山OB野球団(埼玉)、横浜DWBC(神奈川)、小田原フレンドリークラブ(神奈川)
近畿(54)	会社:15	【静岡2】ヤマハ/スクールパートナー 【愛知9】王子/JR東海/東海理化/東邦ガス/トヨタ自動車/三菱重工名古屋/三菱自動車岡崎/日本製鉄東海REX/ジェイプロジェクト 【岐阜2】西濃運輸/日本プロスポーツ専門学校 【三重2】Honda鈴鹿/永和商事ウイング
	クラブ:16	【静岡6】静岡硬式野球倶楽部/富士クラブ/ヤマハ発動機野球部/浜松ケイ・スポーツBC/山岸ロジスターズ/焼津マリナーズ 【愛知7】愛知ベースボール倶楽部/エディオン BLITZ/CENTRAL ARCH/スポーツ総合学園SEED/矢場とんプースターズ/鳥間ベースボールクラブ/ジェイグループ 【岐阜1】岐阜硬式野球倶楽部 【三重2】奥伊勢クラブ/三重高虎B.C
中国(19)	活動休止:2	【会社1】河合楽器(静岡) 【クラブ1】全三重クラブ
	会社:13	【滋賀2】ルネス紅葉スポーツ兼整専門学校/カナフレックス【京都3】島津製作所/日本新薬/ニチダイ 【大阪6】NTT西日本/大阪ガス/パナソニック/日本生命/履正社学園/ミキハウス【兵庫2】日本製鉄広畑/三菱重工神戸・高砂
四国(6)	クラブ:41	【滋賀5】瀬田クラブ/全大津野球団/ルネス紅葉アカデミークラブ/OBC高島/湖南ベースボールクラブ 【京都9】鴨津クラブ/東山クラブ/京都フルカウンツ/京都城陽ファイアーバース/山城ベースボールクラブ/三菱自動車京都ダイヤフェニックス/京都ジャスティス/宇治ベースボールクラブ/DBガラス 【大阪7】NSBベースボールクラブ/大阪ウイング硬式野球クラブ/泉州大阪野球団/関西硬式野球クラブ/八尾ベースボールクラブ/履正社ベースボールクラブ/大阪ホークスドリーム【兵庫9】全播磨硬式野球団/神戸レールスターズ/兵庫県警硬式野球部/豊警太部/KC西宮/NOMOベースボールクラブ/関メディベースボール学院/ジェイエフエフシステムズ/イートファクトリーベースボールクラブ/神戸ビルダース 【和歌山1】マツダ館箕島硬式野球部 【奈良10】関西HANG硬式野球団/NARA Ambitions club/大和高田クラブ/一城クラブ/GSG斑鳩/帝塚山大学OBクラブ/奈良Friend BASEBALL CLUB/奈良メナテナス野球クラブ/BBCジェッツ/NineForce
	活動休止:1	【会社1】田村コピー(兵庫)
九州(33)	会社:9	【岡山2】シティライト岡山/三菱自動車倉敷オーシャンズ 【広島6】ツネイシブルーパイレーツ/伯和ピクトリース/JFE西日本/MSH医療専門学校/三菱重工広島/JR西日本 【山口1】光シーガルズ
	クラブ:10	【岡山2】ショウワコーポレーション/倉敷ビーチジャックス 【広島3】広島鯉城クラブ/福山ローズファイターズ/三原ヤッパスベースボールクラブ 【山口4】航空自衛隊防府クラブ/山口防府ベースボールクラブ/海上自衛隊若国クラブ/岩国五橋クラブ 【島根1】MJG島根
九州(33)	活動休止:1	【クラブ1】鳥取PearKings(鳥取)
	会社:3	【香川2】JR四国/アークバリア 【高知1】四国銀行
九州(33)	クラブ:3	【愛媛1】松山フェニックス 【徳島2】徳島野球倶楽部/TOKUSHIMA ASTROS
	会社:16	【福岡5】九州三菱自動車/JR九州/沖データコンピュータ教育学院/日本ウェルネススポーツ大学北九州/西部ガス 【大分2】九州総合スポーツカレッジ/日本製鉄大分 【熊本5】Honda熊本/熊本ゴールデンラークス/九州工科大学自動車専門学校/鮮ど市場/大福ロジスティクス 【宮崎2】宮崎梅田学園/宮崎福祉医療カレッジ【沖縄2】沖縄電力/エナジック
九州(33)	クラブ:17	【福岡7】福岡ベースボールクラブ/福岡オーシャンズ9/北九州市民硬式野球クラブ/嘉麻市パーニングヒーローズ/苅田ピクトリース/CKGアカデミー/REX/パワーズ 【佐賀2】佐賀魂/ピクトリークロウ 【大分1】BAN BASEBALL CLUB 【宮崎1】宮崎灼熱フェニックス 【鹿児島2】鹿児島ドリームウェーブ/薩摩ライジング 【沖縄4】てるクニック/クラブ/リード安仁屋ベースボールクラブ/ビッグ朝発ベースボールクラブ/シンパネットワークアーマンズベースボールクラブ
	活動休止:5	【会社2】日産自動車九州(福岡)、三菱重工長崎(長崎) 【クラブ3】八代レッドスター硬式野球クラブ(熊本)、宮崎ゴールデンゴールズ(宮崎)、薩摩(鹿児島)

総合計352(会社98・クラブ254) ※休止22(会社6・クラブ16) ※2020年5月31日現在